

コロナ禍のスポーツと政治とは!?

五輪・パラリンピックの主役は、アスリート!! 国家は…
感動の記憶を冷静な記録へ、塗りかえる時は—いま

1月12日(水) 15:20-17:00
東海大学湘南キャンパス 2号館2S-101

「感動の記憶を冷静な記録」へと塗り替える時です。

2020年冬から続く新型コロナ・パンデミックは依然として世界中で猛威を振るい、終息の兆しは見えていません。2022年の北京冬季五輪も東京五輪に続いて「無観客」の開催になりそうです。更に中国の新疆ウイグル自治区の人権問題、ジェノサイドへの批判から、米国など欧米各国による「五輪外交ボイコット」が続いています。

開催の意義を見失いかねない“荒れる五輪”になりそうです。米中スーパーパワーが激しく対立し「民主主義国家 vs 権威主義国家」の対立で世界が二分され、激動する国際政治の渦の中に「平和の祭典、スポーツの祭典」の「五輪・パラリンピック」が巻き込まれ、“五輪スポーツ”もいま、大きく揺らいでいます。コロナ感染で開催が1年延期されたものの、感染が拡大する中で行われた2021年夏の「2020 TOKYO 五輪・パラリンピック」は、“開催反対の国内世論”を押し切り十分な説明なしに開催を強行した当時の菅義偉政権を退陣させるきっかけになりました。しかし、日本人選手らの活躍する姿に多くの国民がテレビ観戦で拍手を送り、鬱屈したコロナ禍の生活に“一瞬の光が射した”感動の時間でもありました。パラリンピックは、子供たちに多くの学びの機会を提供しました。

「スポーツの感動」と「菅政権のスポーツ利用への不満」を同時に体験したあの夏の記憶を正確な記録にとどめ、「2020 TOKYO 五輪・パラリンピック」の残したものは何だったのか—政治とメディアの責任は?その教訓は?—五輪後の日本人はどう変わったのか、このシンポジウムを通じて学生・教職員の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

当日の録画映像を平和研 Web サイトにて後日オンデマンド配信

対 象：学生・教職員

主 催：SPIRIT (東海大学平和戦略国際研究所)

登壇者

(座談会・パネルディスカッション)



丸川 珠代

前東京オリンピック競技大会・東京
パラリンピック競技大会担当大臣
参議院議員



山下 泰裕

公益財団法人日本オリンピック委
員会会長
東海大学副学長



井上 康生

前柔道全日本男子監督
東海大学体育学部武道学科教授



山田 清志

東海大学学長
SPIRIT 研究員



渡辺 雅彦

東海大学医学部付属病院病院長
東海大学医学部医学科外科学系教授



末延 吉正

SPIRIT 所長
東海大学政治経済学部政治学科
特任教授
モデレーター役